

とうようじこうしんとうぐん 「東陽寺庚申塔群」

松伏町指定有形民俗文化財
平成2年7月27日指定

東陽寺（大字下赤岩）の境内には3基の庚申塔が並んでいます。体内の三戸の虫を絶やし、長寿を願うことが庚申信仰の目的（「延宝の庚申塔」の項をご参照下さい）ですが、「三戸」の文字が刻まれた庚申塔の例はほとんどありません。

東陽寺にある3基の内、向かって右端の庚申塔の側面には「三戸消滅」の文字が刻まれており、稀な作例です。また、青面金剛を大きく梵字で表現する例も多くありません。文政4年（1821）の造立です。

また、左端の庚申塔は天和3年（1683）の造立で、町で3番目に古い庚申塔です。上部に青面金剛ではない三体の仏が梵字で刻まれており、初期の庚申信仰では青面金剛が守り本尊として定着していなかったことが分かる好例と言えます。

中央の青面金剛像が刻まれた庚申塔は寛政6年（1794）のもので、この時期の典型的な庚申塔です。

